

防災教育専門部会における検討内容

1. 専門部会の目標

- 今年度中に、防災・減災プログラムの骨格を整理する。
(防災教育の目的、対象等を整理、マトリクス整理表(縦軸横軸を使った情報整理表)の作成等)、震災遺構及び震災記念公園の活用についても検討)

2. 目標達成に向けて今年度実施した取組

- 防災・減災プログラムの骨格(いつどこで、誰がどのような方法で教育する、または、されるべきなのか)について専門部会メンバーで議論(8月～3月)した。
※震災遺構保存・活用専門部会、震災記念公園専門部会とも連携し、議論を進めた(震災遺構や震災記念公園を活用し、防災教育を実施するため)。
- 教育対象者ごとの教育内容を検討するために必要なものを整理した。
 - 町内各小中学校を対象に実施された防災教育に関するアンケートや、学校長ヒアリングの結果を活用した。
 - 「平成28年熊本地震益城町による対応の検証報告書」の各種ヒアリング結果(区長、町職員、公的応援機関、ボランティア団体等)を活用した。
 - 飯野小学校、益城中央小学校、益城中学校において防災教育を実施した。
 - ・東無田トレンチ見学において、地震のメカニズムを学習した。
 - ・座学において、災害(地震)時の行動を学習した。(自助)
 - ・中学生等については、発災からその後の行動を学習した。(共助)
 - ・教職員が教えられる内容・状況を整理した。
⇒益城町の人が益城町で学ぶ
 - 安永地区の子供たちが熊本大学で防災を学習した。
⇒益城町の人が益城町外で学ぶ
 - 県立熊本第二高校生徒が現地(益城町内)で防災を学習した。
⇒益城町外の人が益城町で学ぶ
- 各種研修会等へ参加し、最新の情報を収集した。
 - まちづくり協議会等から、震災記念公園専門部会が開催した座談会等を通じ、防災教育(伝承)に関する意見を収集した。
 - 県所管のデジタルアーカイブ研修会に参加し、情報を収集した。
 - ・町所有被害状況デジタルデータを取りまとめた。⇒来年度県へ送付予定。
- 自主防災組織の設立支援や訓練等を実施し、その検証結果を反映させた。
 - 広安小学校区自主防災クラブの設立支援を実施し、訓練(勉強会)を開催した。
 - 赤井地区自主防災組織設立支援を実施した。
(今後は、校区単位及び地区単位の自主防災組織を設立したことで、組織単位の多様化が図られた。メリット・デメリットを精査したうえで、設立支援を実施する。)